

プラセンタ療法と臨床応用

統合医療の一翼としてのプラセンタ療法

第3回 プラセンタ研究交流研究会

渡邊正俊

2013.3.17

1.はじめに

2.獣医領域におけるプラセンタ治療の歴史

3.動物治療でのプラセンタ製剤

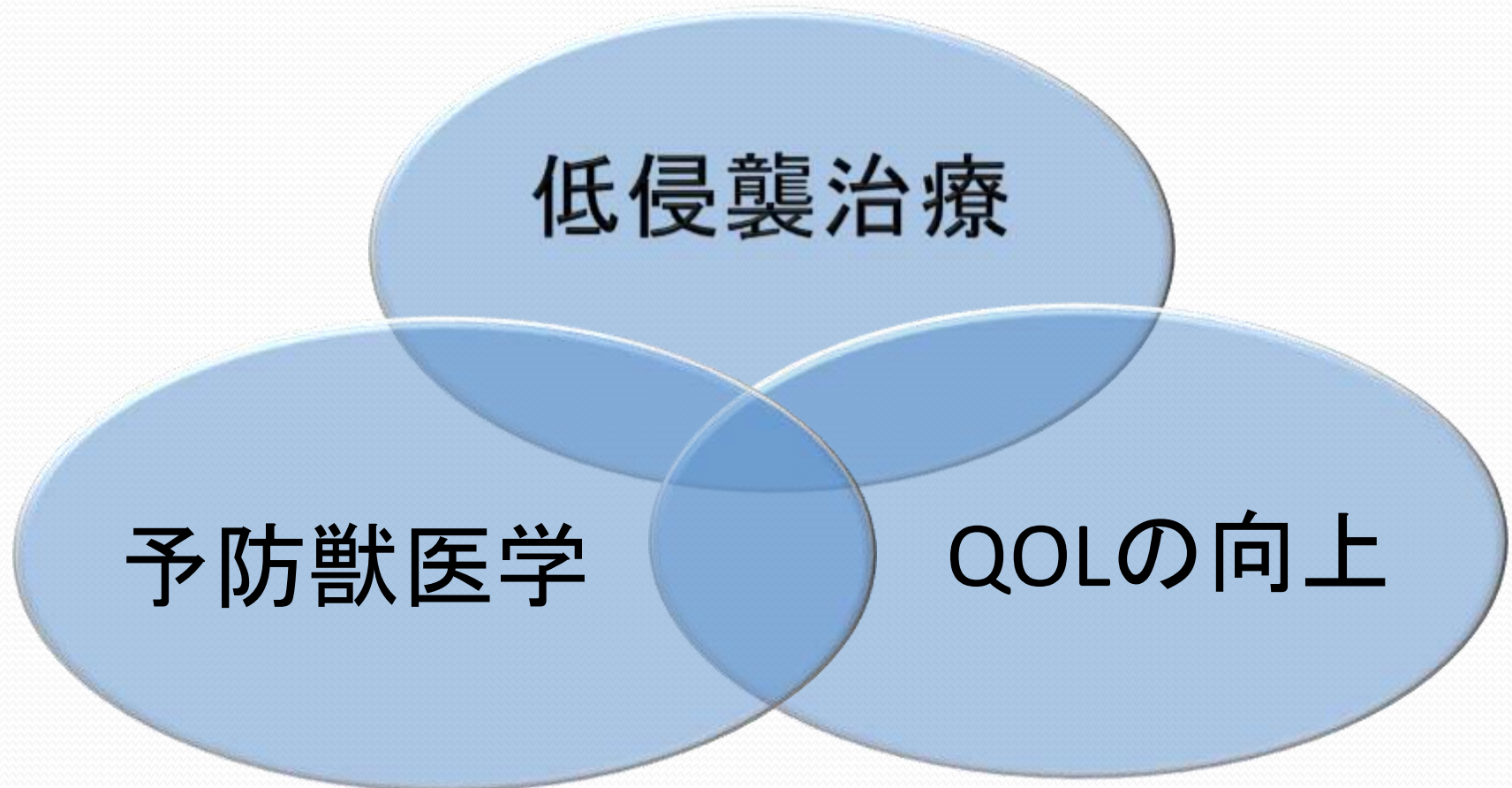
4.動物治療でのプラセンタの作用・効果

5.プラセンタ応用・症例報告および考察

6.将来への展望

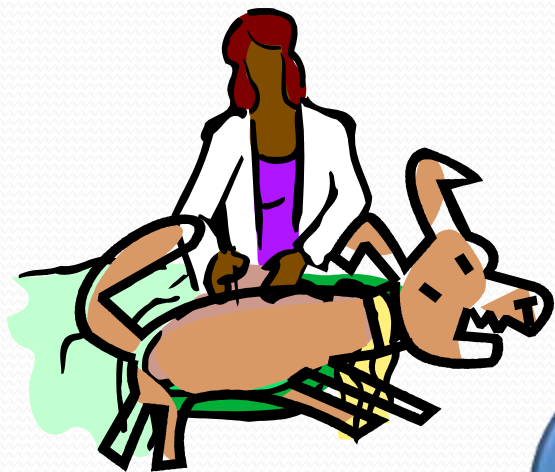


物言わぬ小さな命のために
我々は疾病に対し、どのように取り組むか



統合医療

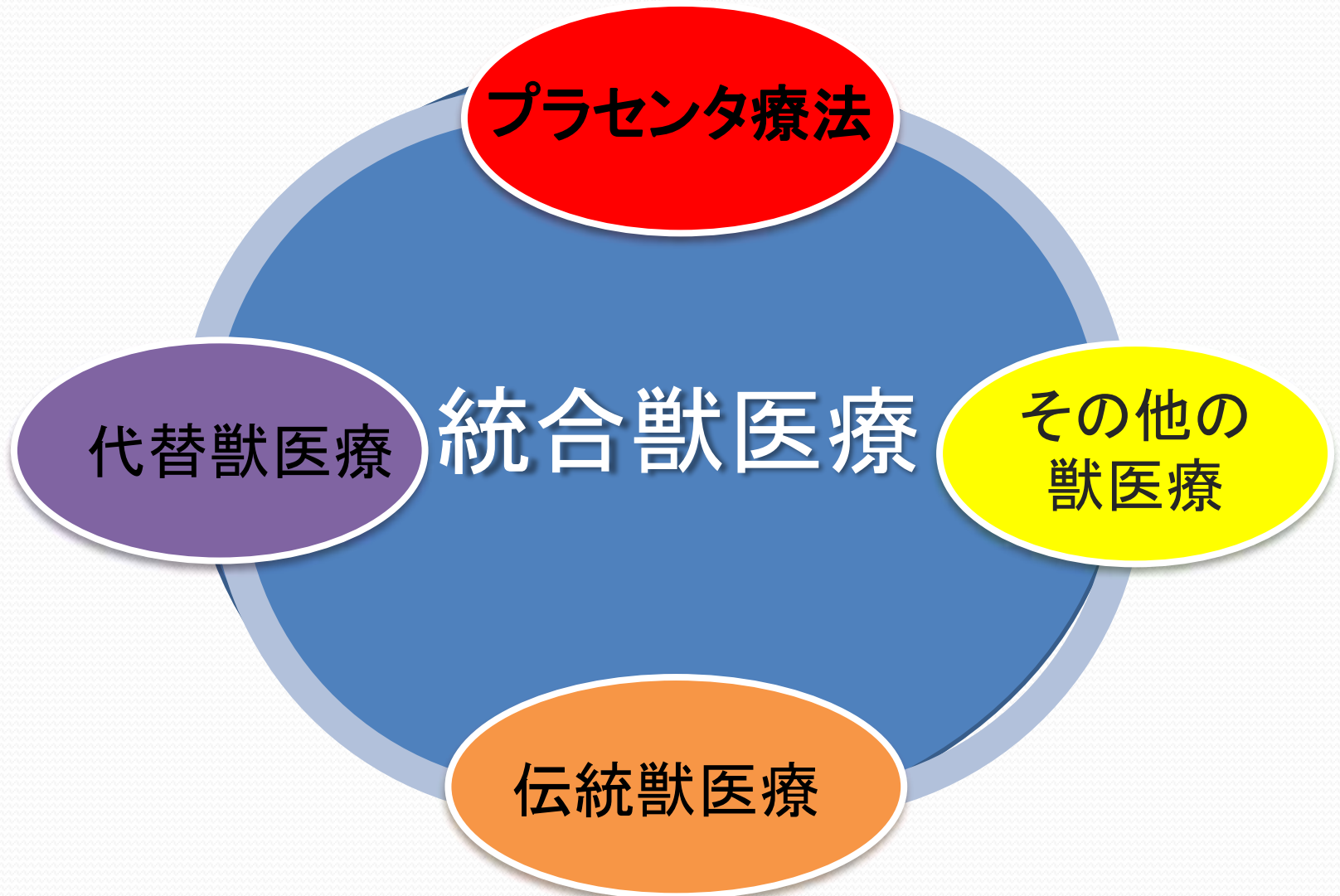
補完・代替医療



エビデンス

補完代替医療：西洋医学領域において科学的未検証及の医療体系

統合獣医療を担うプラセンタ療法



プラセンタ療法の経緯（歴史）

紀元前4世紀

エジプト

クレオパトラ ？

中 国

秘 薬

傷の治療

楊貴妃

江戸時代

紫河車

1943年～1955年 ビタエックス

1950年 組織療法研究会

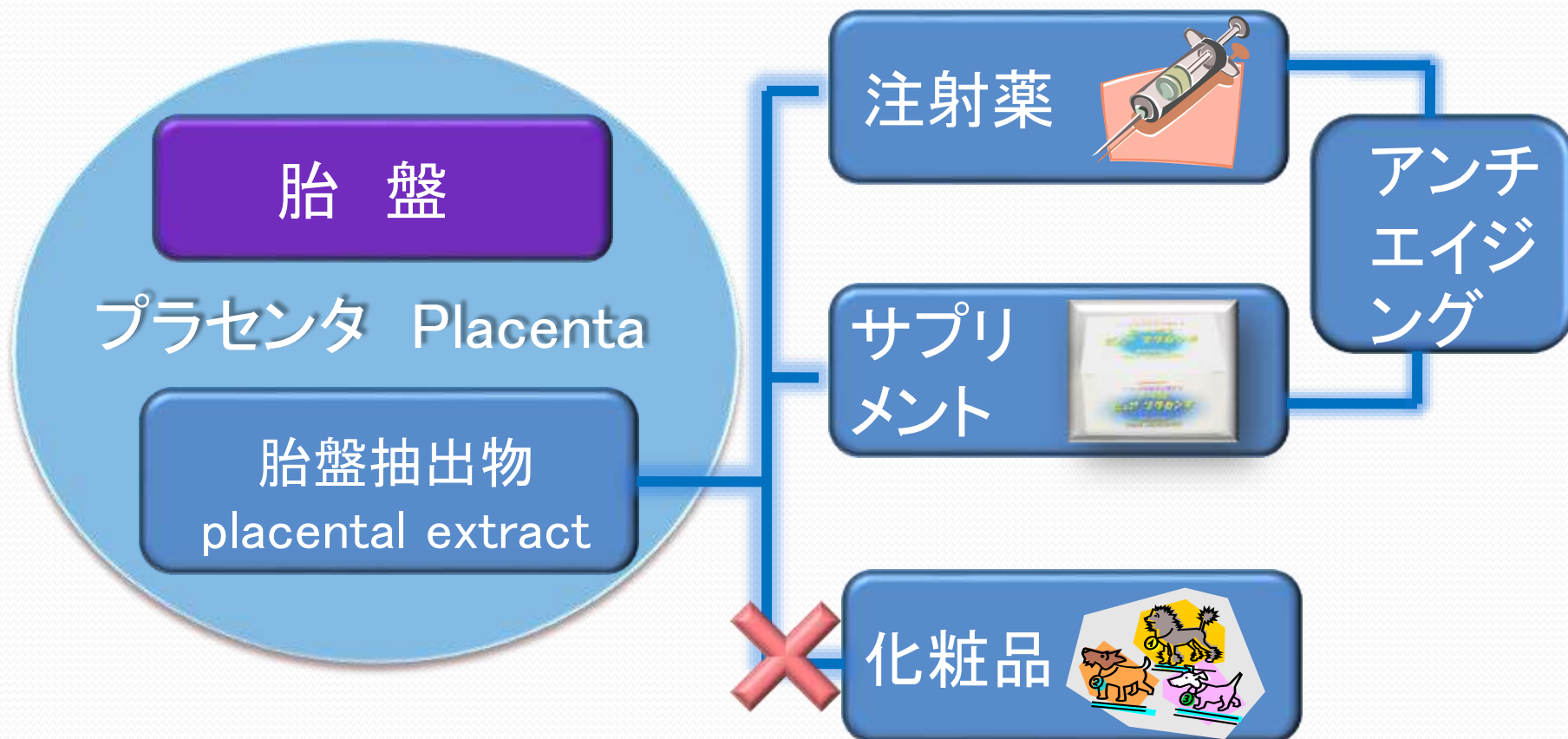
1956年 メルスモン注射薬

1959年 ラエンネック注射薬

2010年 動物用プラセンタ製剤 マーベラスSPFプラセンタ



動物治療でのプラセンタとは



プラセンタ製剤



SPF豚由来のプラセンタエキス

SPF豚

認定シール



特定の病気を持たない元気な親豚

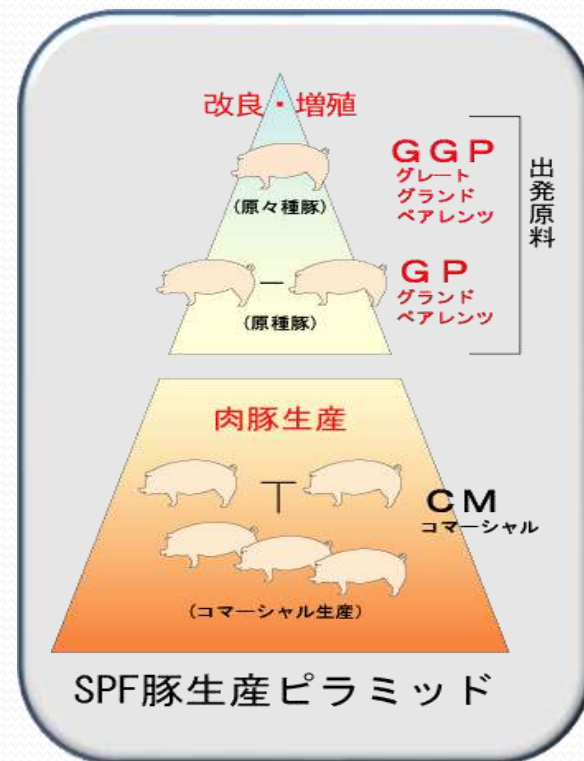
徹底した防疫システム

病気・薬のストレスが少ない

成長が早い

生産ピラミッドの上位のGP以上の豚の胎盤を使用

豚特有の臭いも少ない、安全で高品質なプラセンタエキス



動物用プラセンタの安全性

特徴

①国内産

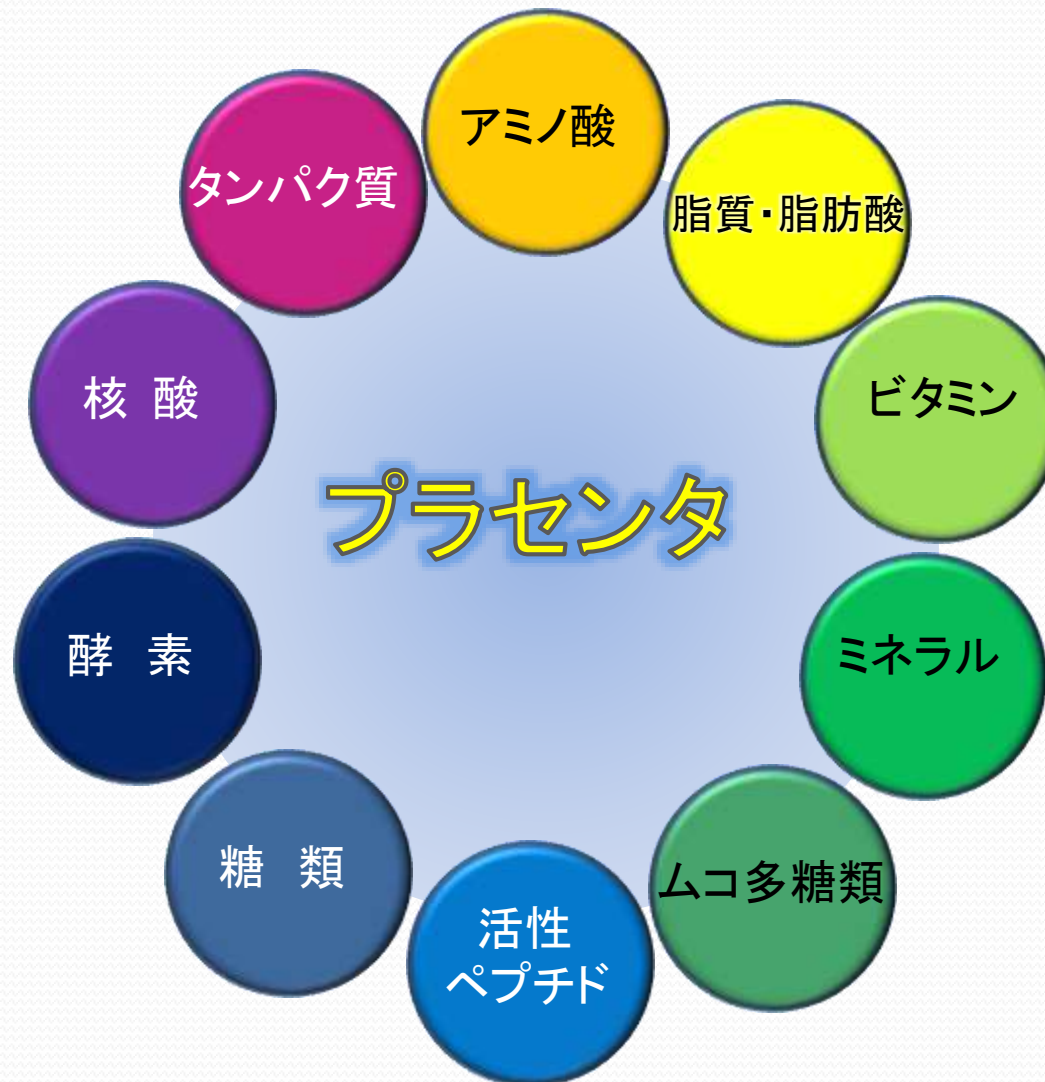
②SPF豚

③原料の製造過程での熱処理



→豚インフルエンザの心配なし

プラセンタに含まれる主な栄養素



人胎盤由来の代表的な細胞分化誘導因子

Neuronal cell
growth factor

神経細胞増殖因子

Epithelial
cells
growth factor

上皮細胞増殖因子

Hepatocyte
growth factor

肝細胞増殖因子

Fibroblast
growth factor

線維芽細胞増殖因子

Insulin-like
growth factor

インシュリン様成長因子

Transforming
growth factor

形質転換殖因子

Interleukin

インターロイキン

Colony-
stimulating
factor

コロニー形成刺激因子

細胞増殖因子

- 神経細胞増殖因子 NGF 神経細胞(知覚・交感神経)の増殖
- 上皮細胞増殖因子 EGF 皮膚・肺・角膜・気管上皮細胞の増殖
- 肝細胞増殖因子 HGF 肝実質細胞及び種々組織の細胞増殖
- 線維芽細胞増殖因子 FGF グリア細胞・血管内皮細胞・線維芽細胞の増殖
- インシュリン様成長因子 IGF 軟骨細胞・平滑筋細胞の増殖

細胞増殖因子

- 形質転換因子 TGF 非形質転換細胞を可逆的に形質転換細胞に転換(骨形成、潰瘍修復、血管密度の増生)
- コロニー形成刺激因子 CSF 顆粒球・マクロファージの増殖
- インターロイキン IL-1 免疫担当細胞(T-細胞、B細胞、NK細胞)
胸腺細胞の増殖リンホカインの生産促進
- IL-2 T-細胞(ヘルパーT細胞・キラー-T細胞・サプレッサーT細胞)
- IL-3 造血細胞の分化を刺激・
- IL-4 B細胞の増殖及び抗体産生細胞への分化促進

プラセンタに含まれる主な栄養素

- アミノ酸類……………必須アミノ酸などの21種のアミノ酸
- タンパク質……………アルブミン、グロブリンなど
- 酵素類……………アルカリフォスファターゼ、酸性フォスファターゼ、ヒアルロニダーゼなど55種類
- 脂質・脂肪酸……………コレステロール、ラウリン酸、パルミチン酸
- 糖質……………グルクトース、ガラクトース、ショ糖
- 核酸構成物質……………ウラシル、アデニン、グアニン
- ミネラル……………カルシウム、ナトリウム、カリウム、リン、亜鉛、鉄
- ビタミン……………B₁、B₂、B₆、B₁₂、D、D、E、ナイアシン
- ムコ多糖体……………ヒアルロン酸、コンドロイチン硫酸
- 活性ペプチド……………神経伝達物質、神経栄養因子、ホルモン、成長因子、サイトカイン

プラセンタの作用効果(動物)

- ・ホルモン分泌調整作用・・・乳汁分泌促進作用
- ・血行促進作用・・・・・・・・創傷治癒促進、
- ・新陳代謝促進作用・・・・・・・・被毛の改善、減量、むくみ
- ・抗アレルギー作用・・・・・・・・花粉症、難治アトピー性皮膚炎
- ・肝機能強化作用・・・・・・・・肝炎、肝硬変、脂肪肝
- ・免疫賦活作用・・・・・・・・感染症の予防
- ・抗酸化作用・・・・・・・・皮膚のシミ
- ・自律神経調節作用・・・・・・・・R-R変動率
- ・滋養強壮作用・・・・・・・・疲労回復、食欲改善

メルスモンの薬効・薬理

組織呼吸促進作用

創傷治癒促進作用

抗疲労作用

田村豊幸ほか：薬理と臨床
6(10)109～114,1978

硝子体及び球結膜下
出血の吸収促進作用

梁泰河：眼科臨床医報
54(5)49～53,1960

プラセンタ応用（獣医領域）

- 肝機能障害
- 口内炎
- 気管支炎
- 胃炎・潰瘍
- 創 傷

- 関節炎
- アトピー性皮膚炎
- 脱 毛
- 前立腺肥大
- 角膜炎

症 例 報 告

1.肝機能改善の症例

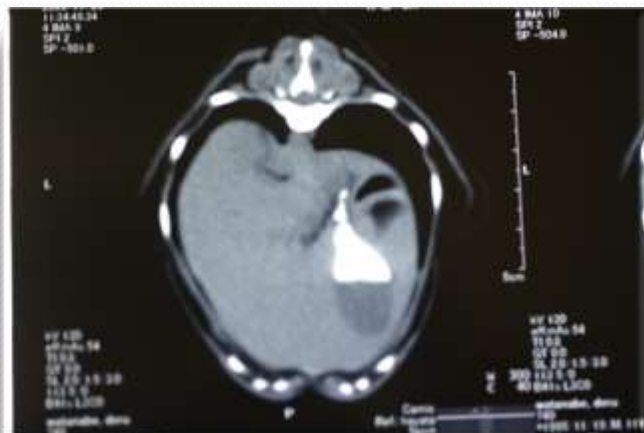
2.創傷治癒促進の症例

1.肝機能改善の症例（1）

- 動物種：トイプードル
- 年齢・性別：14歳 雄



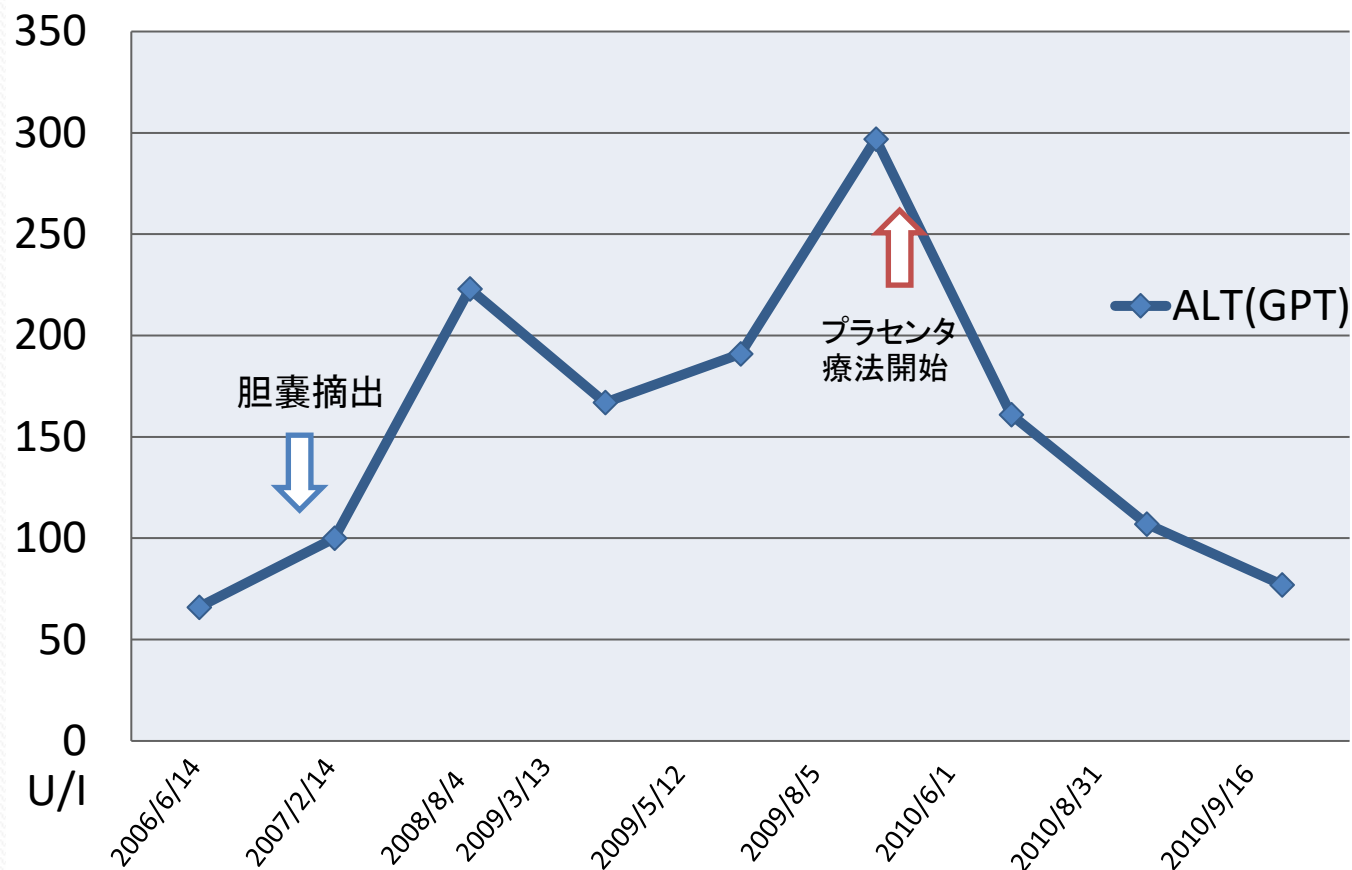
- 疾患名・症状：肝機能低下、胆嚢摘出(胆泥症)



- 投与製剤: マーベラスSPFプラセンタ
- 投与方法: 1日1回 0.5gを食餌に混合して投与



● 結 果 肝酵素 ALT



1.肝機能改善の症例（2）

- 動物種：トイプードル
- 年齢・性別：8歳 雌



血液生化学検査値

項目	検査値	基準値
ALT	421 U/I	10～118
ALP	1078 U/I	20～150
TBIL	1.3 MG/DL	0.1～0.6

- 疾患名・症状：肝機能低下、胆泥症



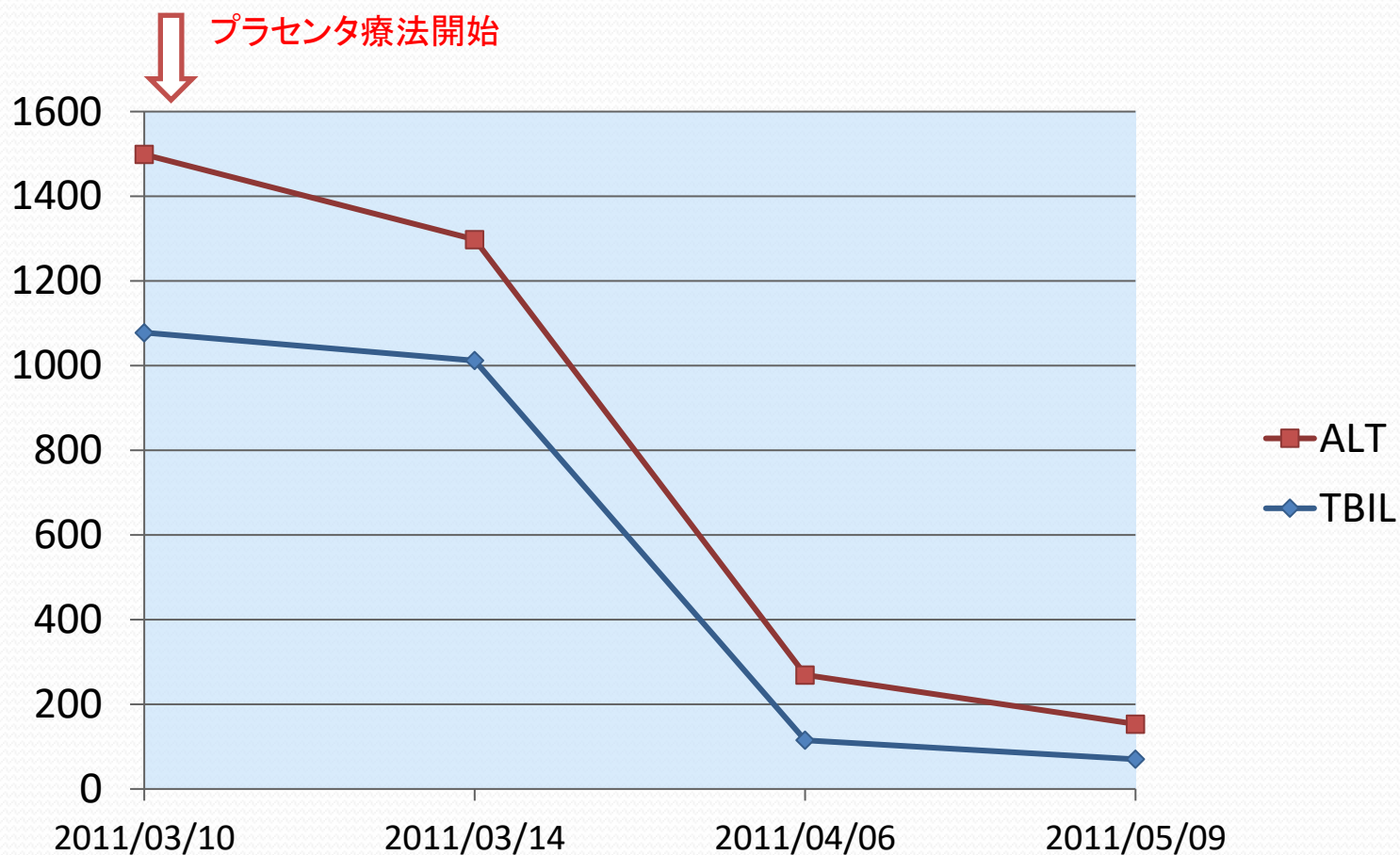
- 投与製剤: マーベラスピュアプラセンタ
- 投与方法: 1日1回 0.5gを食餌に混合して投与
- 併用薬剤: スパカール



血液生化学検査値

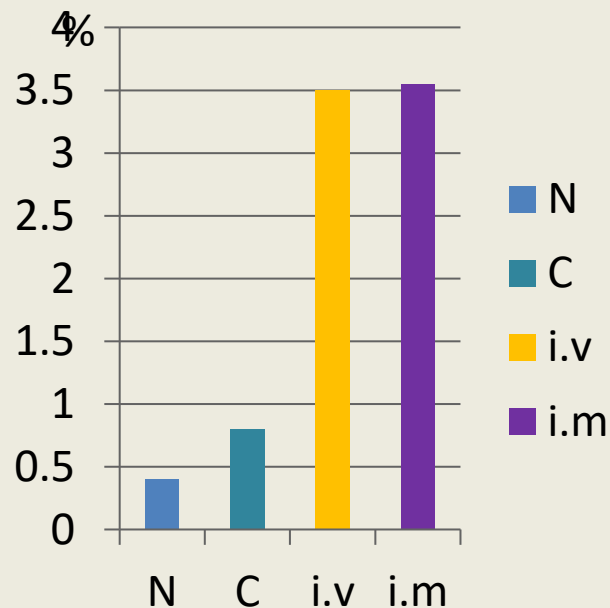
	ALT	ALP	TBIL
2011/3/10	421	1078	1.3
2011/3/14	286	1012	1.0
2011/4/6	154	115	0.4
2011/5/9	83	70	0.2

● 結 果

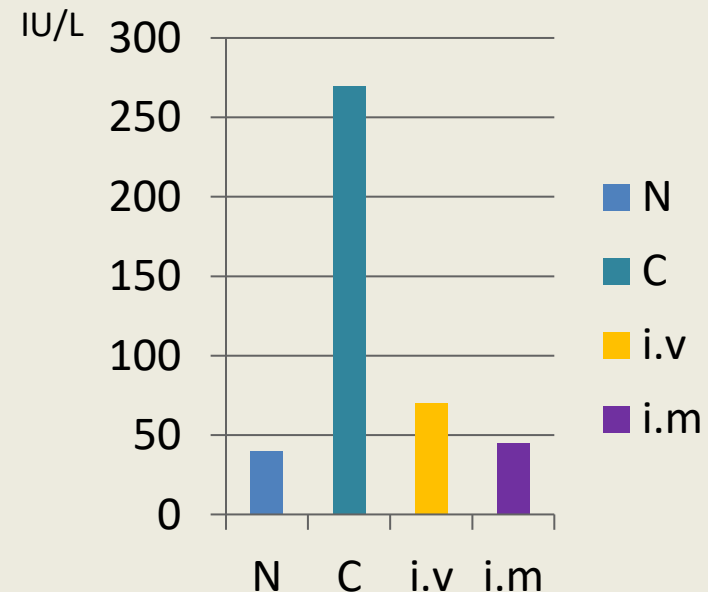


肝再生におよぼすLAENNECの影響

肝細胞増殖



ALT(GPT)

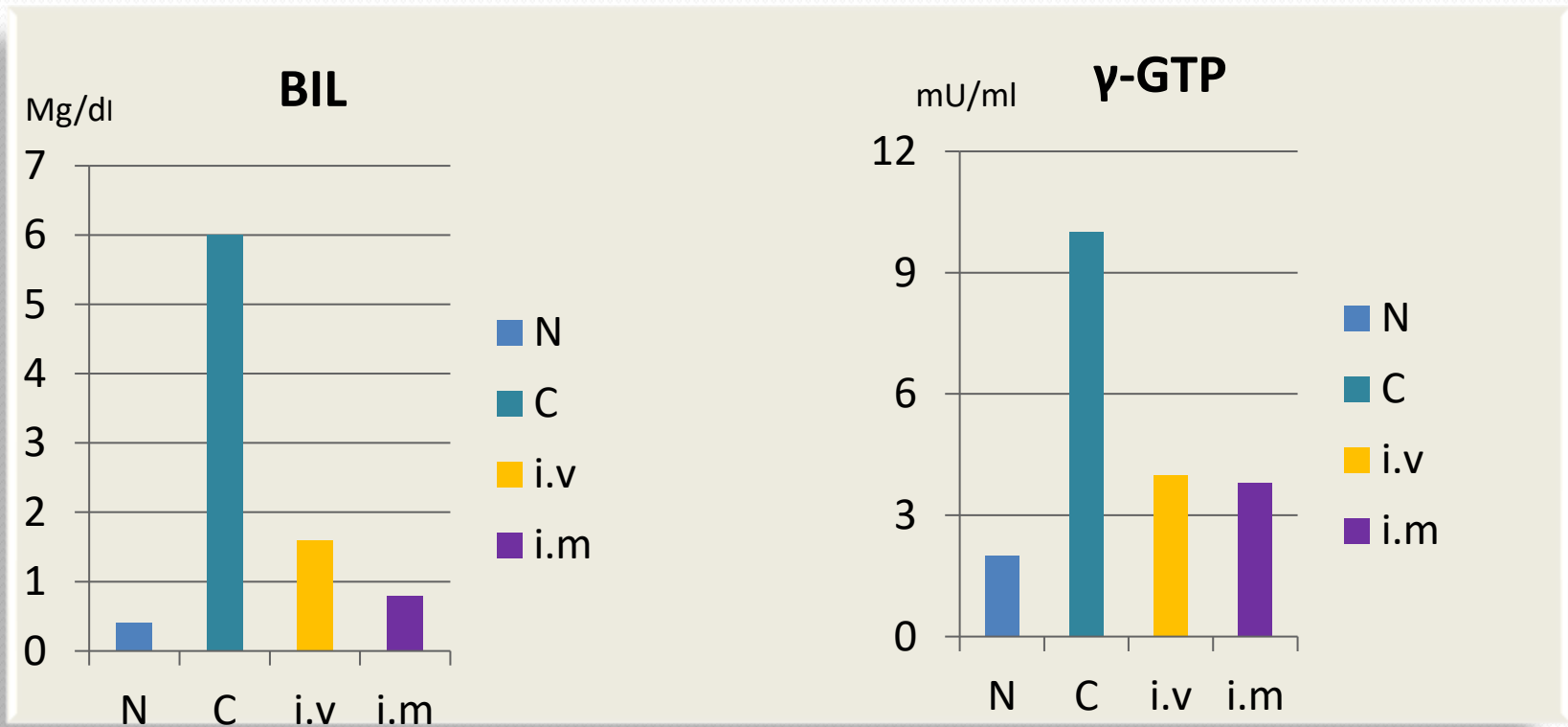


- N: Normal rats without ANIT treatment
C: Control rats with ANIT treatment
i.v: Intravenous administration of Laennec
i.m: Intramuscular administration of Laennec

Clinical Pharmacology and Therapy,
5(12):2187~2194,1995 より引用改編

ANIT: α -naphthylisothiocyanate
 α -ナフチルアイソチオサイアナート

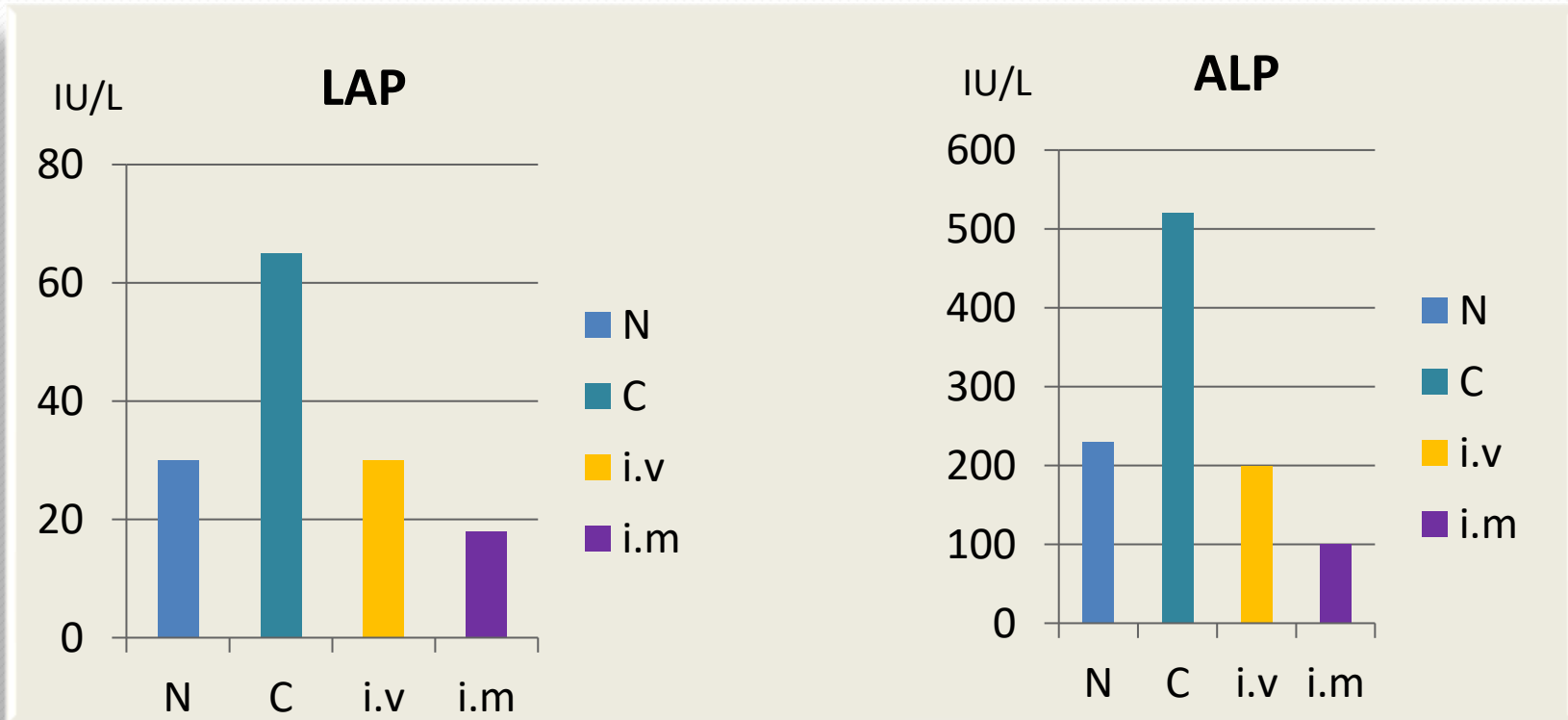
肝再生におよぼすLAENNECの影響



N: Normal rats without ANIT treatment
C: Control rats with ANIT treatment
i.v: Intravenous administration of Laennec
i.m: Intramuscular administration of Laennec

Clinical Pharmacology and Therapy,
5(12):2187~2194,1995 より引用改編

肝再生におよぼすLAENNECの影響



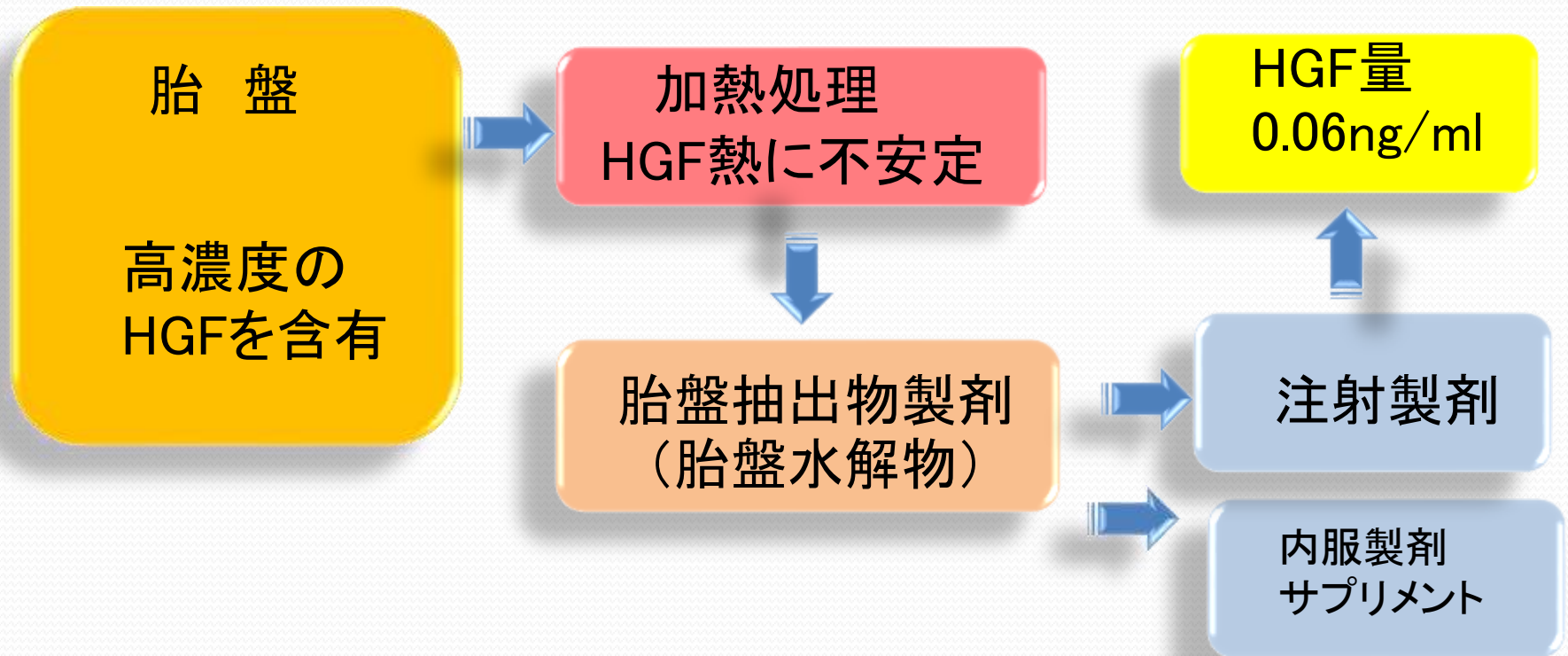
N: Normal rats without ANIT treatment
C: Control rats with ANIT treatment
i.v: Intravenous administration of Laennec
i.m: Intramuscular administration of Laennec

Clinical Pharmacology and Therapy,
5(12):2187~2194,1995 より引用改編

肝再生におよぼすLAENNECの影響

- 肝細胞の増殖・再生を促進する直接作用を有する
- 血清中肝逸脱酵素値（GPT,ALP,LAP, γ -GPT）や血清中ビリルビン値の低下
- 肝細胞膜の接取機能の回復（血清中ビリルビンの肝細胞への取り込み促進）
- 内因性肝増殖促進因子の活性上昇を促す間接作用

- 内因性肝増殖促進因子の活性上昇を促す間接作用



プラセンタ製剤の作用機序の解明

2.創傷治癒促進の症例(1)

- 動物種 : マルチーズ
- 年齢・性別 : 1歳 雄
- 疾患名・症状 : 口唇の裂傷
縫合手術後の患部哆開
のため当院に上診

- 投与製剤: プラセンタ注射製剤 メルスモン 2mL
- 投与方法: 一日おき3回 皮下注射



- 結 果



5日目には肉芽が増殖
し傷はかなり縮小した

- 結 果



治療開始後9日目
には治癒した

2.創傷治癒促進の症例(2)

- 動物種 : 日本猫
- 年齢・性別 : 5歳(推定) 雌
- 疾患名・症状 : 後肢血行障害
による壊死脱落



投与製剤: プラセンタ注射製剤 メルスモン 2mL
投与方法: 一週間2~3回 皮下注射



メルスモン投与2週間後の所見



メルスモン投与3週間後の所見



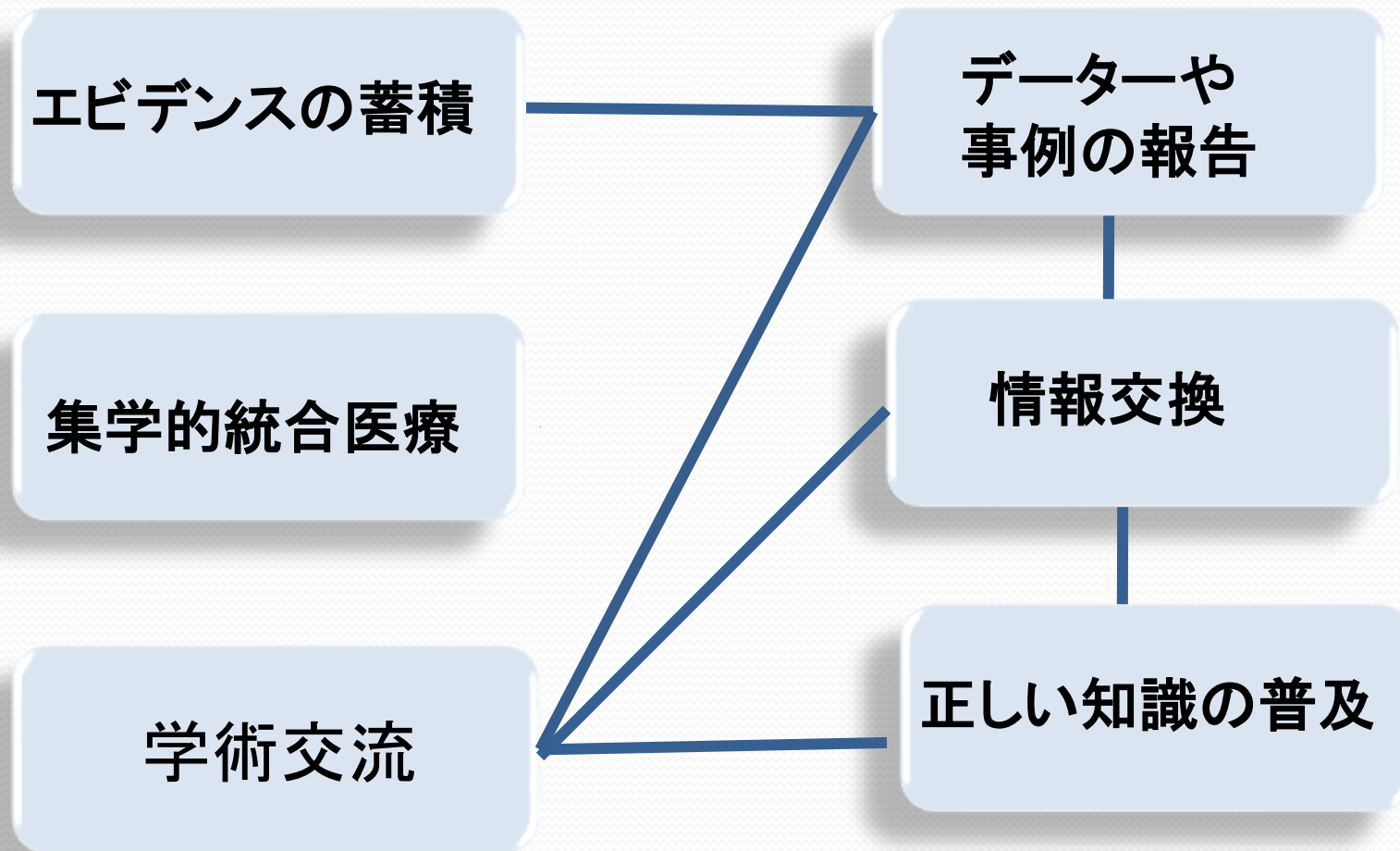
メルスモン投与5週間後の所見



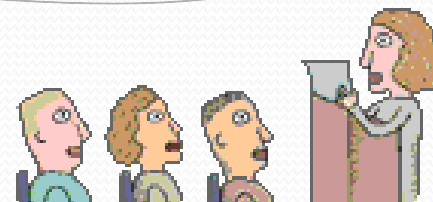
メルスモン投与6週間後の所見



プラセンタ療法の展望



学術的な活動



日本胎盤臨床研究会

2006 年12 月設立

プラセンタ研究交流会

2010年4月設立

統合医療学会 獣医療部会

2013年設立予定



プラセンタ療法の発展を願って



Thank you for your attention